Chapter 39 : **寄生的な相互愛**

一方、バンギラスの邸宅内にある本格的なジムでは、バンギラスとデカヌチャンが戦闘フォームのトレーニングをしていた。バンギラスはサンドバッグに重いパンチを打ち込み、デカヌチャンはまるでリズムゲームの達人のように優雅にハンマーを振っていた。

突然、その静かな時間が破られた。キュワワーがうっとりした目つきで、ゆっくりと部屋に滑り込んできたのだ。

「やっほ〜、イケメンのバンギラス〜♡」  
彼女は歌うように言いながら、蔓を彼の腕に絡めた。

バンギラスはパンチの途中で静止した。  
「……は？」

デカヌチャンも動きを止め、首をかしげた。  
「え、またあのトロール看護師？」

だが誰かが反応する前に、キュワワーはくるりと振り返り、今度はデカヌチャンをじっと見つめ、キラキラと輝いた。  
「まぁ、あなたも美しいじゃない。決めたわ、二人とも大好き！」

そう言って、彼女は劇的に小さなポケパッドを差し出した。そこには、雑だけど妙に詳細なファンアートがいくつか描かれていた――キュワワー×デカヌチャン、キュワワー×バンギラス、そして三人でのグループウェディングの落書きまで。

「……お願い、結婚して？　二人とも。傷は癒すし、戦いでは応援するし、ベジタリアンラザニアだって作るから！」

バンギラスとデカヌチャンは固まったまま、口を半開きにしていた。彼らの背後では、サンドバッグだけが律儀に揺れ続けていた。

「……マジなの？」と、デカヌチャンがようやく小声でささやいた。

「……どうやらな」バンギラスが目を見開いたままつぶやいた。

キュワワーは空中でくるくると回りながら叫んだ。  
「もうトロールじゃないよ、これは愛なの！」